サステナ NEWS

鳥獣害対策 鉄鋼スラグ導入支援

耐久性高く、除草省力化

農水省は、鳥獣害対策の強化に向け、電気柵の下地に活用できる鉄鋼スラグの導入支援を始めます。鉄鋼スラグは耐久性が高く、除草作業の省力化につながります。電気柵を設置した地面を鉄鋼スラグで舗装することで雑草の発生を抑え、電気柵の効果を維持します。

電気柵は、熊の侵入防止にも役立ちます。ワイヤに害獣の一部が触れ、ワイヤ、害獣、地面へと電気が流れることで、効果を発揮します。地面が未舗装で、雑草が絶えずワイヤに触れていると漏電してしまい、効果が弱まります。コンクリート舗装では、電気の流れが途切れ、効果がなくなります。

鉄鋼スラグは、電気を流しながら、雑草を抑制することができます。「みどりの食料システム戦略」に関連する実証事業では、実証地で鉄鋼スラグと電気柵の併用により、イノシシ、鹿、アライグマなどの被害がほぼ解消されたといいます。施工から10年たっても劣化せず防草効果と通電性は維持されたとしています。

同省は2026年度予算概算要求で、侵入防止柵の整備などを支援する「鳥獣被害防止総合対策交付金」に、鉄鋼スラグの導入支援を新たに盛り込みました。

導入時の補助率は、今後詰めます。現行事業では、電気柵用の防草シートなどの導入時に、直営施工の場合には資材費を定額で補助。請負施工では、事業総額の半額以内で補助しています。

（日本農業新聞　2025年12月4日）

ことば　鉄鋼スラグ

製鉄の過程で生まれる副産物の一つ。地面に敷いて散水し、機械で踏み固めて舗装する。凹凸が少なく、アスファルトで舗装したような仕上がりになる。林道の舗装や高速道路の中央分離帯などに使われている。

農業技術ピックアップ

縞葉枯病抵抗性WCS用イネ中生品種「つきあやか」を奨励品種に採用

県内では近年、イネ縞葉枯病の発生が散見され、今後も増加が懸念されます。WCS用イネの栽培には極短穂性の中生品種である「たちあやか」が県内で多く利用されていますが、縞葉枯病に抵抗性を有しておらず、今後WCS用イネの安定生産のためには、抵抗性を有する品種の導入が必要です。そこで、2024年3月、縞葉枯病抵抗性を有する中生のWCS用イネ品種「つきあやか」を奨励品種に採用しました。

「つきあやか」は「たちあやか」と比較して、以下の特徴があります。

❶出穂期及び黄熟期に差がない（表1）。

❷地上部乾物収量に占める穂部割合は小さく、消化性が優れる。茎葉乾物収量は同等である（図1）。

❸黄熟期における飼料栄養成分はほぼ同等で、良質なサイレージの目安とされる乾物中10％以上の高い可溶性炭水化物含量を有する。

また、「つきあやか」は、農研機構（育成地）における保毒虫接種による幼苗検定法により、イネ縞葉枯病に抵抗性があることが確認されています。

お問い合わせ先

生産技術研究室　農産研究課
☎0598-42-6359
中央農業改良普及センター
☎0598-42-6705

▼このコーナーは三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に研究成果を紹介します。

表1　出穂期および黄熟期の生育特性

品種	出穂期（月/日）	黄熟期（月/日）	黄熟期 草丈（cm）	稈長（cm）	穂長（cm）	見かけの穂長（cm）	穂数（本/㎡）	稲体水分含有率(%)	倒伏程度（0-5）
つきあやか	8/3	8/27	142	109	12.2	8.4	323	62.5	0.0
(比)たちあやか	8/3	8/27	140	107	13.1	9.0	295	62.7	0.0

注1）2022年と2023年の2ヶ年の平均値。
注2）移植日：2022年は5/16, 2023年は5/15、栽植密度：60株/坪、植付け本数：4本/株、総窒素施肥量：13.2kg/10a
注3）黄熟期は、出穂期からの積算日平均気温が680℃に到達し、かつ黄化籾の割合が50～75%になった日。
注4）見かけの穂長は、穎花が着生した最も低い位置の一次枝梗から穂先までの長さ。
注5）倒伏の程度は「無」(0)～「甚」(5)の６段階評価。

図１　地上部乾物収量（2カ年平均）